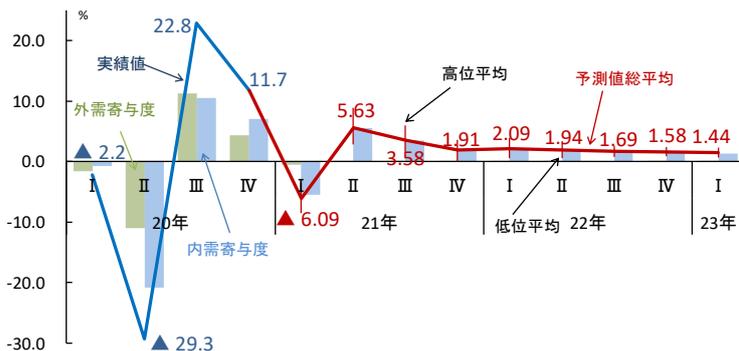


1 2021年1～3月期の実質経済成長率(前期比年率)は▲6.09%、4～6月期は5.63%。

21年1～3月期の実質経済成長率(前期比年率)は▲6.09%と前月より下方修正された。4～6月期以降プラスに転じる見込み。



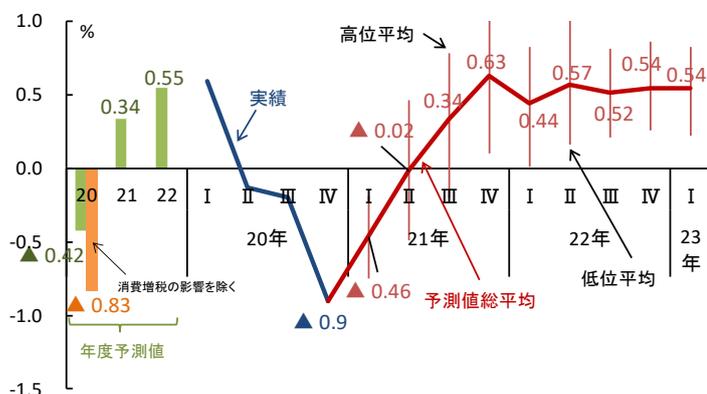
◆21年I期(1～3月期)実質GDP及び内訳の増減率(%)

実質GDP 前期比年率 (前期比)	民間最終 消費支出	民間企業 設備投資	財貨・サー ビスの輸出	財貨・サー ビスの輸入
▲6.09 (▲1.56)	▲2.73	▲0.18	1.05	1.91

(注) 内訳4項目は前期比。

3 消費者物価上昇率(前年同期比)

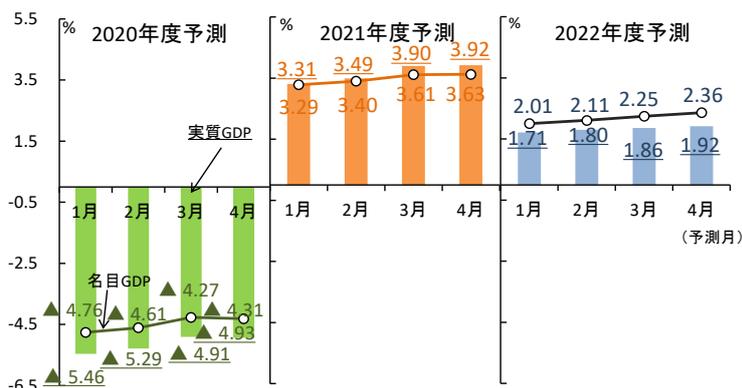
20年10～12月期の▲0.9%(実績)から次第に下落幅が縮小し、21年7～9月期にプラスに転じる。年度では、20年度は▲0.42%で、21年度以降プラスに転じる。



(注) 生鮮食品除く総合の前年同期比上昇率。

2 20・21・22年度の実質経済成長率は▲4.93%、3.92%、1.92%と前月調査並み。

20年度の実質経済成長率は▲4.93%と2年連続でマイナス成長となるが、21年度以降プラスに転じる。名目成長率は19年度の0.5%(実績)から、20年度にマイナスとなり、21年度以降はプラスに転じる見込み。



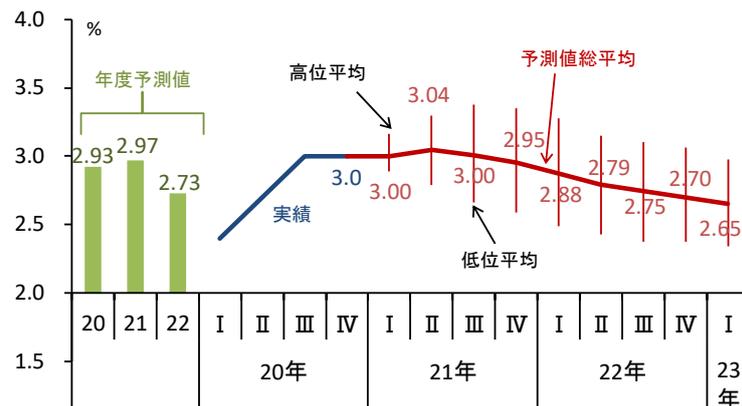
	2020年度	2021年度	2022年度
内需寄与度	▲4.0 (▲3.8/▲4.2)	2.7 (3.6/2.1)	1.9 (2.6/1.2)
うち民需	▲4.9 (▲4.7/▲5.1)	2.2 (3.1/1.5)	1.7 (2.5/1.1)
うち公需	0.9 (1.0/0.8)	0.5 (0.8/0.2)	0.2 (0.4/▲0.1)
外需寄与度	▲0.9 (▲0.8/▲1.1)	1.2 (1.6/0.7)	0.1 (0.4/▲0.3)
実質GDP 成長率	▲4.93 (▲4.75/▲5.10)	3.92 (4.90/3.26)	1.92 (2.66/1.25)

(注1) 値の見方: 平均(高位平均/低位平均)

(注2) 1・2の寄与度は簡易計算によるもので厳密なものではない。

4 失業率

21年4～6月期の3.04%まで上昇し、その後23年1～3月期まで低下が続く。



5 21年1～3月期の成長率（その他項目）

主要4項目以外の需要項目について、21年1～3月期の動きを尋ねた。上昇するという回答が多い項目は、「民間在庫変動」と「公的固定資本形成」だった。

（回答数 36）

（実質）	民間 住宅投資	民間 在庫変動	公的固定 資本形成	政府 最終消費	公的 在庫変動
上昇	17	28	27	13	1
横ばい	2	6	4	1	34
低下	17	2	5	22	1
回答数	36	36	36	36	36

（注）フォーキャスター数（名）。前期比伸び率の符号を質問し、プラスの場合に「上昇」、ほぼゼロの場合に「横ばい」、マイナスの場合に「低下」とした。在庫変動はGDP成長率に対する寄与度を尋ねた。

6 景気の転換点・・・18年10月が山

18年10月の景気転換点（山）（政府見解、暫定）の次の景気転換点（谷）はもう過ぎたかどうかを聞いた。（回答数 35）

・はい（＝過ぎたと思う人）・・・35名（前月調査 35名）

転換点（谷）は2020年4月・・・1名、2020年5月・・・33名、2020年7月・・・1名

・いいえ（＝過ぎていないと思う人）・・・0名（同0名）

転換点（谷）を過ぎたと思う人にその次の景気転換点（山）も過ぎたかどうかを聞いた。

・はい（＝過ぎたと思う人）・・・0名（前月調査 0名）

・いいえ（＝過ぎていないと思う人）・・・35名（同 35名）

今後1年以内に転換点（山）がくる確率の予測の平均・・・24.3%（同 24.9%）

7 （特別調査）金融政策と金利見通し

1) 金利見通し

21、22年末の短期政策金利と長期金利の誘導目標の見通しを尋ねた。短期政策金利は、21年末は回答者全員が現行並みの「▲0.1%以上0.0%未満」と回答し、22年末も「▲0.1%以上0.0%未満」が多かった。（回答数 36）

長期金利の誘導目標は、21年末は回答者全員が現行並みの「0.0%以上0.1%未満」と回答し、22年末も「0.0%以上0.1%未満」が多かった。（回答数 36）

長短金利の予想値分布 （%）		▲0.3 未満	▲0.3 ～ ▲0.2	▲0.2 ～ ▲0.1	▲0.1 ～ 0.0	0.0 ～ 0.1	0.1 ～ 0.2	0.2 ～ 0.3	0.3 ～ 0.4	0.4 ～ 0.5	0.5 ～ 0.75	0.75 ～ 1.0	1.0以上
短期の政策金利	現行＝▼	▼											
	2021年末				36								
	2022年末			1	35								
長期金利の誘導目標	現行＝▼	▼											
	2021年末				36								
	2022年末			1	34	1							

（注）フォーキャスター数（名）。例えば、「▲0.1～0.0」は「▲0.1%以上0.0%未満」の意味。

2) 枠組み自体の変更

上記の見通しに関して枠組み自体の変更などを聞いたところ、枠組みの変更はないなど3名のフォーキャスターが答えた。

[詳細は9ページ参照]

8 (特別調査)米国金利

1) 政策金利見通し

21、22 年末の米国の政策金利（FFレート・市場実勢値）の予想を尋ねた。21 年末は回答者全員が「0.0%以上 0.25%未満」と答えた。22 年末も「0%以上 0.25%未満」が多かった。（回答数 36）

米FFレートの予想値分布(%)	▲1.0未満	▲1.0 ～ ▲0.75	▲0.75 ～ ▲0.5	▲0.5 ～ ▲0.25	▲0.25 ～ 0.0	0.0 ～ 0.25	0.25 ～ 0.5	0.5 ～ 0.75	0.75 ～ 1.0	1.0 ～ 1.25	1.25 ～ 1.5
2021年末						36					
2022年末						34	1	1			

(注) フォーキャスター数 (名)。例えば「0.75～1.0」は「0.75%以上 1.0%未満」の意味。

2) 長期金利見通し

21 年 6 月末、12 月末、22 年 6 月末、12 月末の米国の長期金利（10 年国債）の予想を尋ねた。回答が多かったのは、21 年 6 月末は「1.6%以上 1.7%未満」と「1.7%以上 1.8%未満」、12 月末は「1.7%以上 1.8%未満」と「1.9%以上 2.0%未満」、22 年 6 月末は「1.8%以上 1.9%未満」、12 月末は「1.9%以上 2.0%未満」だった。（回答数 21 年 6 月末・22 年 6 月末・22 年 12 月末 34、21 年 12 月末 35）

米国の長期金利 (10年国債)の 予想値分布(%)	0.7 ～ 0.8	0.8 ～ 0.9	0.9 ～ 1.0	1.0 ～ 1.1	1.1 ～ 1.2	1.2 ～ 1.3	1.3 ～ 1.4	1.4 ～ 1.5	1.5 ～ 1.6	1.6 ～ 1.7	1.7 ～ 1.8	1.8 ～ 1.9	1.9 ～ 2.0	2.0 ～ 2.1	2.1 ～ 2.2	2.2 ～ 2.3	2.3 ～ 2.4	2.4 ～ 2.5	2.5 ～ 2.6	2.6 ～ 2.7	2.7 ～ 2.8	
21年6月末	1				1	1	2		3	8	8	6	2	1			1					
21年12月末			1	1	1		1	2	1	1	7	4	7	5	1	1		1				1
22年6月末				2		1	1	1	2	1		7	5	5	3	1	4		1			
22年12月末				1		1	2		2	3	1	1	7	4	4	1	2	1	2	1	1	1

(注) フォーキャスター数 (名)。例えば「1.0～1.1」は「1.0%以上 1.1%未満」の意味。

9 (特別調査)オリンピック開催

今回の予測に、21 年度のオリンピック開催を織り込んでいるかを尋ねたところ、34 名が織り込んでおり、2 名が織り込んでいないと答えた。織り込んでいない場合には、その理由を尋ねた。（回答数 36）

◆2021 年度のオリンピック開催を予測に織り込んでいるか

	はい	いいえ
オリンピック開催	34	2

(注) フォーキャスター数 (名)。

◆予測に織り込んでいない理由

①開催経費がどの程度膨らむのか見通せない	0
②再延期・中止の可能性も否めない	2
③その他	0

(注) フォーキャスター数 (名)。複数回答

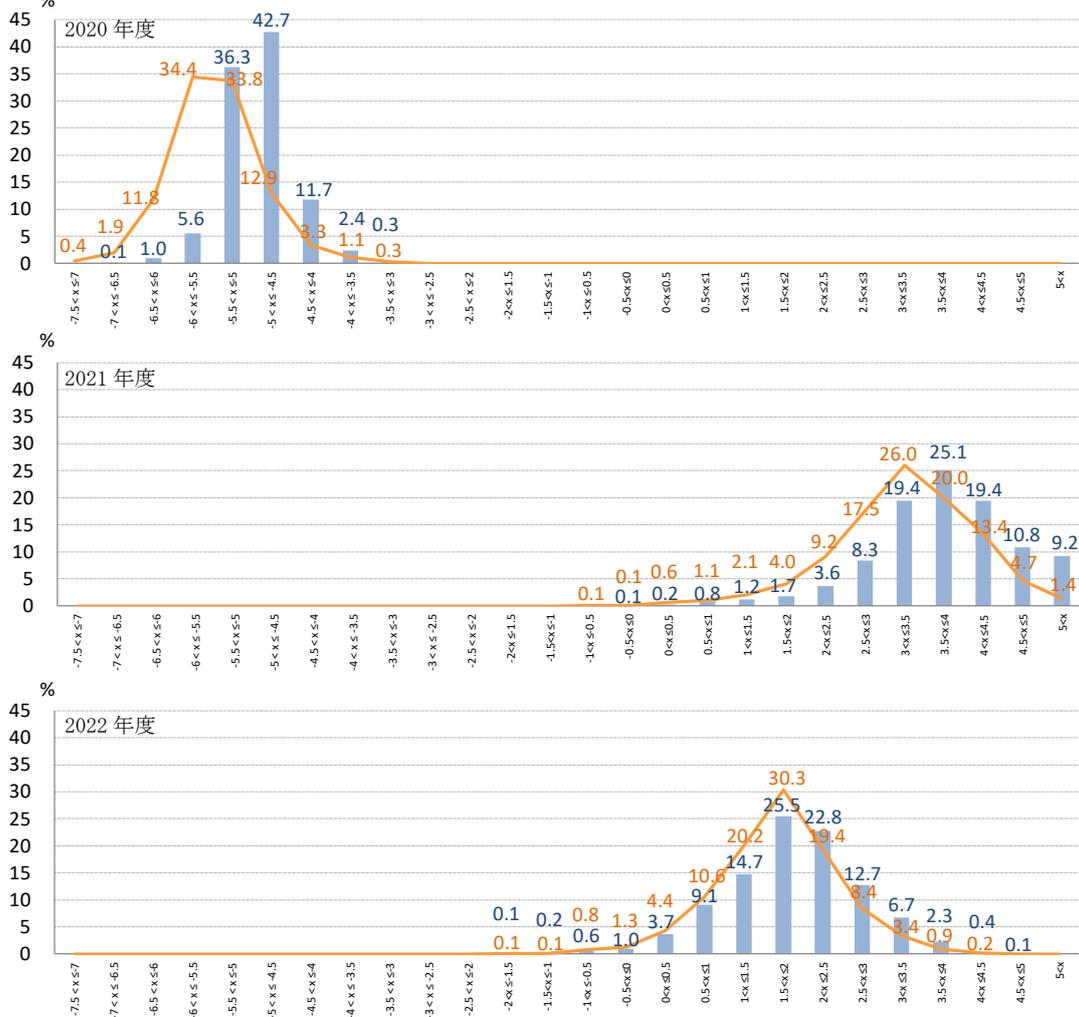
(参考) 海外主要 3 カ国・地域の実質 GDP 成長率予測 (暦年、%)

	米国	ユーロ圏	中国
2020 年	▲3.5	▲6.8	2.3
2021 年	5.81 (5.21)	3.98 (3.99)	8.36 (8.44)
2022 年	3.58 (3.43)	3.66 (3.51)	5.45 (5.43)

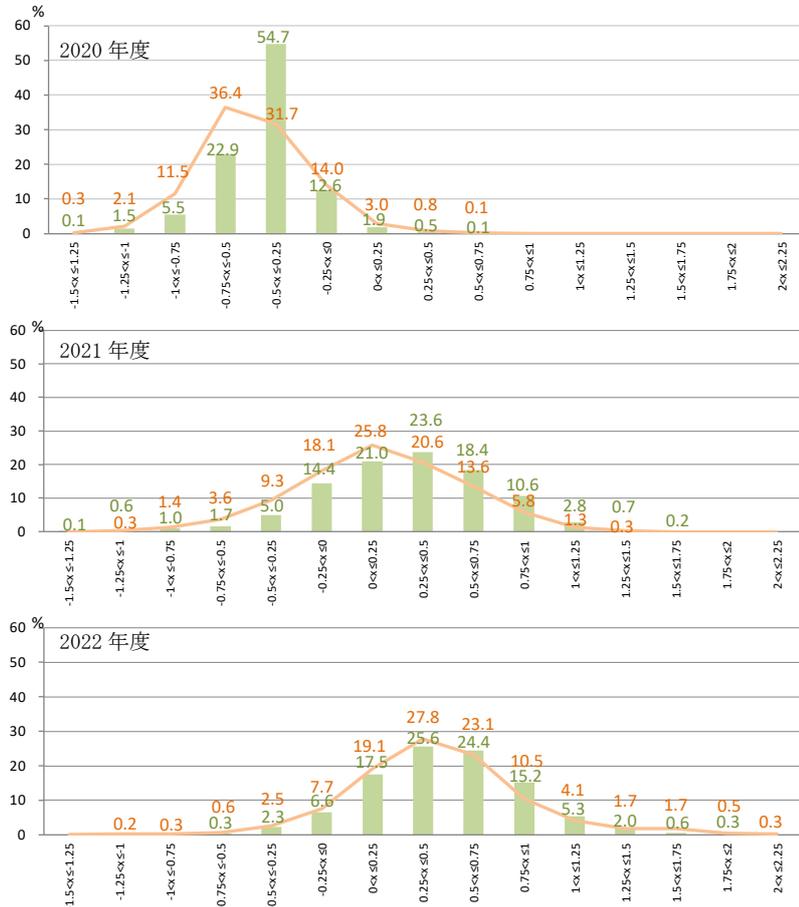
(注) 20 年は実績値。() 内は前月調査。

次回 (2021 年 5 月調査) の公表予定は 5 月 13 日頃

実質 GDP 増加率のコンセンサス予測の不確実性 -各レンジの平均確率-



CPI(生鮮食品除く総合)騰落率のコンセンサス予測の不確実性 -各レンジの平均確率-



(注)各フォーキャスターが各レンジに付した確率の平均値。折れ線グラフは、21年1月の予測値。